

支援方法・手立て・支援事例集

～「本人もまわりもしあわせであること」をめざして～



事例①<あおいとり>

| 子どもの姿 | 背景要因として考えられること | 支援例(具体的な手立て) | ふりかえり(効果、改善策など) |
|---|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・思い通りにならないと手が出てしまう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉で伝えられない。 ・自己肯定感が低い。 ・力加減がわからない。 ・自分を守っている。 ・大人の気を引くために叩く。 ・注意を集めたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本人の気持ちに共感しながら、こういう時はこうするといいんだよという行動や言葉を教える。 ・クールダウンできる場所を用意しておき、イライラする時、手が出そうになった時はその場所に行くことを教える。 ・叩いても大丈夫なものを用意しておく ・叩いたり蹴ったりして発散できる遊びを促す。 ・本人は軽く触ったつもりかもしれないが、強かったことを知らせ、力の加減ができる遊びをさせる(風船バレー、押し相撲など)。 ・叩かずにいられたら、ほめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・イライラしたり、気分がおさまらない時に活用できた。時間をおいて、落ち着いたなら戻ることができた。 ・喜んで何回も繰り返して遊んだ。 ・遊びの中で繰り返すことで感覚がわかってきたのか、ハイタッチなど軽く手を合わせるができるようになった。 ・注目をはずすことで叩くことは減ってきた。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 全体の指示が通らない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話している人を見ていない。 ・自分に話していると気づいていない。 ・環境に目移りするものがある。 ・聞くだけではわからない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に予告する。 ・話をする前に注目させる。 ・全体に話をしてから、個別に話をする。 ・カーテンなどで隠しておく。 ・(文字・絵カードなどで)スケジュールを前もって知らせておく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「今から話します。よく聞いてね」と予告し、聞いていない子どもには、個別に再度、話をした。 |

事例②<保育園・保育所・幼稚園> 「身支度に時間が掛かってしまう子ども」

★目標「流れを理解して、自分でスムーズに活動できるようになる」

| 子どもの姿 | 背景要因として考えられること | 支援例(具体的な手立て) | ふりかえり(効果、改善策など) |
|---|---|--|--|
| <p>・身支度の途中で、裸足で外に出て砂遊びをしたり、別のクラスに行ったりして進まない。</p> <p>・身支度をし始めたら、早くすることができず。</p> <p>・他の子が身支度を終え、外で遊び始めると様子を見に行ったり、自分が好きな玩具を先に使われていると怒ったりする。</p> <p>・言葉はオウム返しが多く、自分の言葉で思いを伝えるなどは今は難しい。</p> <p>・相手が話していることは理解している様子である。</p> | <p>①周りの環境が気になってしまうのかもしれない。</p> <p>②別のクラスの友達や教師にも一日の始まりに会いたい、朝の挨拶をしたいのかもしれない。</p> <p>③身支度といっても『今何をすればいいのか』という具体的なことを頭の中だけや言われるだけでは理解することが難しいのかもしれない。</p> <p>④広い部屋なので動き回りたくなってしまうのかもしれない。</p> | <p>①ドアを閉めたり、いつも遊んでしまうものを片づけたりパーテーションを準備したりして、気になるものを減らす環境をつくった。</p> <p>②-1 戻るように声を掛けたり、抱っこして保育室に戻ったりした。</p> <p>②-2 すぐに戻そうとせず、様子を見守り、少し気持ちを満たしてから声を掛けるようにした。</p> <p>②-3 「挨拶したら帰ろうね」「準備が終わってからまた遊びに来ようね」と予告をしたり、約束したりした。</p> <p>③身支度の順番を示す絵カードを準備した。本児が実際に使っているものを写真に撮って絵カードにすることで分かりやすくした。</p> <p>④マットを1枚敷いて身支度のスペースを決めた。</p> | <p>①遊ぶものがなくなってしまうと、身支度に集中できる時間が長くなった。パーテーションも嫌がることなく「出して!」と本児も楽しみながらスムーズに身支度を進めることができた。</p> <p>②-1 嫌がって暴れたり、また同じように保育室を出て行ったりした。</p> <p>②-2 満たされたのか、スムーズに戻るが多くなってきた。それでも満たされるまでに少し時間が掛かる。</p> <p>②-3 「帰るよ」と急に言われるよりも、予告したことで気持ちを整理しやすくなり、約束も守れるようになった。</p> <p>③-1 カードが好きということもあり、大変興味をもった。聞くよりも目で見て理解する方が分かりやすい様で、やるべきことを見て理解でき、見通しを持てたことで、自分の力でスムーズに身支度ができるようになった。→絵カードは大変効果があり、身支度以外の活動でも活用している。</p> <p>④初日は嫌がってマットを片付けるよう訴えたが、続けていくうちに慣れ、今ではその上で身支度をするという認識になって、動き回ることが減った。</p> |

保護者との連携

・家庭での様子を聞いたり、園での様子を話したりすることで、本児の理解に努め、どのような支援が良いのかを考えたり、家と園で同じような関わりができるようにしたりした。
→たくさん話して情報収集!!

事例③<保育園・保育所・幼稚園> 「身支度に時間がかかる子ども」

★目標「保育者の促しがなくてもスムーズに身支度ができる」

| 子どもの姿 | 背景要因として考えられること | 支援例(具体的な手立て) | ふりかえり(効果、改善策など) |
|---|---|---|--|
| <p>・身支度(登所後、給食後、降所前)に時間がかかる。</p> <p>・その都度保育者の声掛けが必要。</p> <p>・次に自分が何をすべきかは分かっている。ex)給食後「次何すればいいでしょう?」と尋ねると「歯磨き」と答える。</p> <p>・保育者の声かけが届いていない場面がある(好きなことに集中している時など)。</p> | <p>・周囲の環境に気を取られやすい。</p> <p>・同じ場所に仕舞うものでも、1つずつリュックから出して仕舞うので時間がかかっている。</p> | <p>登所後の持ち物の始末は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児と同じくらいの時間に登所した友達と競争させる ・まとめて仕舞えるように見本を見せながら一緒にする。 <p>・早く支度を終わると、その分好きな遊びが長くできたり、楽しいことができると繰り返し伝える。</p> <p>・帰りのおあつまりの音楽が流れ始めたら、音楽が終わるまでに支度を終わらせるよう伝える。</p> <p>・砂時計と競争しよう!とゲーム感覚で話をする。</p> | <p>・競争の相手や本児の気分によって早く支度をするのができたり、いつもと変わらなかつたりした。</p> <p>・給食後は効果があることもあった。朝、帰りの支度は効果がないことが多かった。</p> <p>・本児はあまり急ぐ必要性を感じていないようで、ほとんど効果なし。</p> <p>・5分の砂時計と勝負すると急いで支度をする姿が見られた。</p> |
| <p>保護者との連携</p> <p>・本児のマイペースさをじっくり待てる保護者。早く出来たときにほめたことを伝える。</p> | | | |

事例④<保育園・保育所・幼稚園> 「気持ちをうまくコントロールできない」

★目標「集団生活のルールを知り、安心して友達といっしょに遊ぶことができる」

| 子どもの姿 | 背景要因として考えられること | 支援例(具体的な手立て) | ふりかえり(効果、改善策など) |
|---|---|--|---|
| <p>○ 集団で話を聞く際、飽きてくると近くにいる友達や教師の手をつねったり、甘噛みしたり、体を触り出す。</p> <p>○ A 児のペースで遊べないとイライラしたり物に当たったり、友達や教師に噛みついたり、抱っこやおんぶなどの要求が増える。また、本児が遊んでいる遊びを途中でストップされたり、「そっちに行ったらだめ」など行動を否定されることによって、大泣きし、パニックになる。気持ちの切り替えが難しい。</p> <p>○ 友達を追いかけ回す。友達が逃げまわるので追いかけて回り、最後に捕まえる。自分が楽しいから友達も楽しいと思っている。</p> <p>○ お片付けの時間になると、「嫌だ。したくない。まだ遊ぶ。」と感情を言葉で伝える。その思いが伝わらないと、感情のコントロールができなくなり、近くにあるものや持っているものを投げたり、叩いたり、友達にぶつかりにいたり、噛みつきつねる。</p> | <p>○ 興味のない話に集中できず、飽きてしまう。</p> <p>○ 集中力が続かない。</p> <p>○ 遊びを制限されたり、A 児の思い通りに遊べなかったりと、自由にできないことから我慢することが増えたため。また、行動を否定されることにより、A 児の気持ちがパニックになっている。</p> <p>○ A 児にとっては楽しい遊びになっているので、友達が嫌がっていることに気付いていない。</p> <p>○ 友達や教師の表情を読み取ることが苦手。</p> <p>○ 遊び足りていない。</p> <p>○ 楽しいからもっと遊びたい。</p> | <p>○ 手を握ったり、さすったりして A 児が安心したり、気がまぎれるようにする。</p> <p>○ 運動会の練習の後は、好きな遊びをし、発散できるようにする。</p> <p>○ プッシュポムやシリコンのおもちゃ、タオルなどで気持ちの切り替えを促す。</p> <p>○ 甘えを受け止めていく。</p> <p>○ 動きの制限を緩める。</p> <p>○ 肯定的な言葉掛けで伝える。(職員間の共通理解)「だめ、行けない」→「少し待ってね」</p> <p>○ A 児に友達の気持ちを知らせる。また、周りの友達にも嫌な時はどうしたらよいか知らせる。</p> <p>○ A 児のいいところを友達に知らせる。</p> <p>○ 気持ちを受け止めながら、今はお片付けの時間ということを知らせる。また、事前にお片付けの時間を伝える。次の予定を伝える。</p> <p>○ 気持ちの切り替えを促す。</p> | <p>○ 落ち着くことができた。</p> <p>○ 少しずつ A 児の気持ちが安定してきた。</p> <p>○ 教材を使うことで、気持ちをクールダウンすることができた。</p> <p>○ 動きの制限を緩めたこともあり、チックが減ってきた。</p> <p>○ 肯定的な言葉掛けにより、泣き止み、待つことができた。</p> <p>○ A 児だけでなく周りの友達も、嫌なことがあった時は、言葉で教師に伝えることが増えてきた。</p> <p>○ A 児に対して怖さを抱いていた友達も少しずつ A 児の良いところに気付き、認めていった。</p> <p>○ 事前に片付けの時間を伝えたことで、納得してお片付けができるようになった。</p> |
| <p>保護者との連携</p> <p>○ 登降園の際、A 児の園での様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりしながら信頼関係を築いている。</p> | | | |

事例⑤<保育園・保育所・幼稚園> 「落ち着きのない園児」

★目標「落ち着いて所の生活ができるよう支援する」

| 子どもの姿 | 背景要因として考えられること | 支援例(具体的な手立て) | ふりかえり(効果、改善策など) |
|--|--|---|---|
| <p>○ 絵本の読み聞かせ時や全体の話をする時にじっとしてられない。</p> <p>○ 集団生活を苦手とし、友達との関わりがない。</p> <p>○ 言葉のオウム返し。</p> | <p>○ 周りが騒がしいと落ち着きがなくなる。</p> <p>○ 絵本に興味がない。</p> <p>○ 話の内容が理解できない。</p> | <p>○ 保育者がそばにつき落ち着いて絵本や話が聞けるように言葉掛けをしていく。</p> <p>○ 今は何の時間(すべきこと)かを根々と伝えていく。</p> <p>○ パニックを起こしたら静かな場所に連れていき、落ち着くまで待つ。</p> | <p>○ 成長とともに落ち着きも出てきて、少しの時間なら座って話や絵本の読み聞かせができるようになってきた。</p> <p>○ 友達との関わりも増え、ケンカの仲裁をするようになった。</p> <p>○ 突然言葉を発することもあるが、「静かにします」と声をかけると「しー」と言い、静かにしようとする。</p> |
| <p>保護者との連携</p> <p>○ 送迎時や連絡帳を通して、所への様子を伝えていき、家庭での様子を聞くなどした。3歳児健診などの様子を聞いたりした。</p> | | | |

事例⑥<小学校> 「できないことがあるとイライラしたり落ち込んだりして、アドバイスを素直に受け入れられない」

★目標「わからないことがある時は先生や友達に助けを求めることができる」

| 子どもの姿 | 背景要因として考えられること | 支援例(具体的な手立て) | ふりかえり(効果、改善策など) |
|---|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・友達より早く解き終わることにこだわる。 ・自分の間違いを認めることができない。 ・間違いを人のせいしようとする。 ・わからない問題や解き間違いがあった時、過剰に落ち込んだり、イライラしたりして助言を聞くことができない。 ・助言を素直に聞けないので、いつまでも正解できずに泣いてしまう。 ・わからない問題も途中で投げ出すことはなく、最後までやり遂げようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・精神年齢の幼さ。 ・友達より自分の方ができるという過剰な自信。 ・否定されることへの不安。 ・数や語彙に関する幼児期の生活経験不足。 ・今までは生活経験をもとに学習を理解できていたが、内容が難しくなり理解が追い付かなくなってきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・わからないときは、お助けカードなどで教師に合図を出す。本人のプライドを傷つけないように、最初から支援するのではなく待つ。 ・本人の気持ちが落ち着いてから助言する。 ・事前につまずきそうな問題のヒントカードや解き方の手順を準備し、必要に応じて提示する。 ・正解や不正解にとらわれないよう、「どこがわからないか」や「助けてほしいこと」を言えることが大切だと話していく。 ・速さ競争ではなく、正確に解くことが大切だと話していく。 ・SSTなどで「わかりません」「教えて」など人に頼っていいことを学ばせる。 ・「わからない」「教えて」などの合図を出すことができたなら褒める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・間違えたことを恥ずかしいと思わずに、教師や友達の助言を聞いて落ち着いて取り組んだときは、よく理解できていることを話し続けたことで、落ち込みやイライラの頻度は下がってきた。 ・自分から進んでサインを出すことはあまりないが、助言を受け入れられるようになってきた。 ・本人の自尊感情を損なわないよう、頑張っていることや得意なことを常に評価するよう心掛けた。 ・情緒に関する指導は難しいと感じる。指導者が心折れずに長い目で支援することも大切。 |
| <p>保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に面談をし、頑張っていることや改善したいことを伝え、共通理解を図る。家庭でも学習の支援を依頼する。 | | | |

事例⑦<小学校>「じっとしてられない子どもへの対応」

★目標「落ち着いて行動できるようにする」

| 子どもの姿 | 背景要因として考えられること | 支援例(具体的な手立て) | ふりかえり(効果、改善策など) |
|---------------|-------------------------------|--|-------------------------|
| ・授業中じっとしてられない | ・いろいろなことに気を取られてしまい、興味が移ってしまう。 | ・児童に毎回目標を明示して小さな変化でも大いに褒めて少しずつ自信をつけたり、自己肯定感をもたせたりする。 ・普段から褒めることで自尊感情を高めていく。 | ・外部の専門機関に相談し、保護者と連携を図る。 |

事例⑧<中学校>「タブレットを手放せない」

★目標「学校にいる間、タブレットを使わない時間を増やす(タブレットなしでも大丈夫!にする)」

おもな手立て:学校を楽しいと思える場所にするため、朝のスタートを大事にする

できないことよりもできることに目を向け、「ほめる」「一緒に喜ぶ」

| 子どもの姿 | 背景要因として考えられること | 支援例(具体的な手立て) | ふりかえり(効果、改善策など) |
|---|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・登校時、車から降りないことが多く、心の安定を図るために自分用のタブレット PC を持参している。 ・好調の時は、給食後からの使用ができていたが、心身の状況によっては、手放すと探す、要求する行動を起こすこともある。 ・床に座ったり、毛布に潜って寝たまま見たりしているため、視力の低下や姿勢の悪さが心配。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎学校が楽しいと思える場所になっていない。 ・家庭では、タブレット PC やビデオ視聴、ドライブをして過ごしていることが多く、その時間は比較的安定しているため手放すと不安を感じるのではないか。 ・他の楽しみが見つからない。 ・依存症になっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎朝は笑顔で迎え、登校できたことをほめ、保護者と一緒に喜ぶ。 ①登校時にタブレットを目の前であずかる ②給食を食べたら使えることを伝える。 ③預けられたら毎回ほめる。 (「すごいね~!」「カッコイイね~!」) ④自傷行為などがあり、安定を図るために必要な時は活用する。 ⑤休憩時間は体を動かし、興味を持ってそうなものを探す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で車を降りてくるが増えてきた。 ・登校時、初めは渡せない時もあったが、渡せた時は保護者も一緒にほめたことで、ほとんど直接担任に渡せるようになった。(2回手放せない時があった) ・学習時間を増やしたり、自由時間は音楽を流したりすることで、2学期からは給食後まで使わずに過ごせるようになった。 ・学校のタブレット PC をテレビにつなぎ、好きな音楽を聞きながら体を揺らしたり、飛び跳ねたりして楽しめるようになった。 ・学習の合間に散歩の時間を入れたり、交流学級の保体の授業に参加したりして体を動かせるようになった。 |
| <p><保護者との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・車を降りる時に、「生徒—保護者—担任」の流れでタブレット PC を預けるよう協力してもらおう。出来た時はほめてもらう。 ・学校でできたことを伝え、家庭でも少しずつ使用時間を減らしてもらおう。 ・興味を持ってそうなものを一緒に探す。 | | | |
| <p><まとめ></p> <p>以前より、できないことよりも今できたことに目を向け、「ほめること」、「一緒にできたことを喜ぶ」を実践したことで、生徒の笑顔も増え、自分から行動を起こそうとする場面も増えた。今後は「学校ではタブレット PC がなくても大丈夫」を目指すために、興味の幅を広げ、楽しいと思えることを探す。今後も出来たことをほめ、自分からいろんなことに関わりようとする気持ちを育てていきたい。</p> | | | |